

**生駒南小・中学校の今後について 住民向け説明会
意見、質疑応答部分 議事要旨**

日時:令和4年12月25日(日) 午前10時~12時

場所:南コミュニティセンターせせらぎ セミナー室201~203

参加人数:41人

<質問>

経緯の中で、確かに南小学校の地域協議会から意見書が出されているが、その中で、小中一貫という言葉がどこかに出てきていたのか。地域の中から小中一貫をやって欲しいという意見まで一言も出てきていない。こういうことがあったというのは大きな間違いなので、訂正して欲しい。

小中一貫の最初の考え方の中で、学校の先生の意見というのはどう反映されたのか。併せて南小・中学校の先生はどういう考えなのか。

【回答】

意見書の中では、小中一貫教育という言葉はないが、地域協議会で、生駒市として、小中一貫教育を推進するという話が出ており、説明してきた。

答申等を出すときに、メンバーの中に教員も入っていたので、教員の意見ももちろん取り入れている。

<質問>

市が教育再編、学校再編にあたって、小中一貫教育を進めるという中身も含めて、ホームページでお知らせしているということだが、ホームページで内容が見つきにくい。教育委員会が発する学校再編、小中一貫校のあり方について、市民の皆さんは熟知されているのか。ホームページがどのくらい開かれているのか、ホームページを見られた方がどのくらいいるのか。

【回答】

ホームページの閲覧状況について、その部分だけのデータを、今持ち合わせていない。というのは、全体的な閲覧状況は見られるが、細部になると、中のデータの話になるので、その部分だけが出るかということも分かり兼ねる。

それと、小中一貫教育の話だが、教育委員が集まって、市の方向や教育の内容を決めていくことの一つとして、小中一貫教育を進めていこうということは、市内全域でやっていることである。例えば、小学校に、中学校の先生が来て教えてもらったり、交流を持っていただく。そうすると小学校から中学校に上がったときに、中学校の先生を知っているので、生徒が安心して授業を受けられることや、小学校は担任が1人だが、中学校になると、教科担任制で、教科ごとに先生が変わることを、スムーズにやっていくための内容として、この小中一貫教育を今進めているところである。

<質問>

住民説明会にご参加くださいという回覧のチラシには、小学校・中学校の一貫教育の方向性を課題にしているような形が書かれている。いきなりそれを見た人が、学校はどうなるのか、学校再編ということは一体どういうことなのか、また、今の小学校、今の中学校のことで、どんな問題があるのかと疑問をお持ちの方がいる。50年近くの伝統ある校舎があって、150年の歴史を持つ小学校をなくして中学校に統合する、一貫教育を進めるというところが、皆さんにはまだ十分理解されてないように思う。スケジュールを見ても、早すぎるのではないかと、もう少し意見を聞いて欲しい、意見を言う場をつくって欲しいということで、今回の説明会をしていただいた。校舎の老朽化がどの程度かという問題で、個別資料を見せてもらったときに、南小、中学校を合わせて、早急に校舎を建て替えなければならない、危険な状態ではないという判断だった。そういう判断を受けながら、教育委員会の方としては、老朽化が進んでいるので早急に建て替えをと言われると、非常に不親切な案内だと思うし、そこで行われるという一貫教育は一体何だろうと、まだまだ納得いかない部分もある。

【回答】

南小学校、歴史的には150年ということで、現建物については46年の建物等がある。文部科学省が、学校の維持をしていくために、老朽化に耐えるように、今の建物を80年もたせるための改修をしていきなさいと、ただ、最終的には、建物の耐力度がどうなるかということでは建て替えをしていきなさいという方針である。適時、改修は進めてはきているが、やはり50年を経ってきていると、例えば外壁を塗って、それが建物の延命化に繋がるかということ、躯体部分の柱などや防水、教室の中の黒板や廊下、そして床などの改修をしていかなければならない。そういうところで、判断としては建て替えをするか否かというような形で考えている。この建物の改修については、【資料2-3】に、学校再編に係る地域協議会からの意見書の提出で、市教育委員会においては校区の見直し等による南中学校の規模適正化に向けた検討を早急に進めていただきたい、と書いてある。この老朽化対策は、中学校も小学校も同じような状況で、時期が同じになってくる。予算のことも時期的なこともあるので、市内19の学校を一つずつ、順次改修を進めていきたいと思っている。まずは、南小学校、南中学校を進めたい。これが順番になると、また数年遅れてくる。計画的にここを進めていく元となったのが、文部科学省の学校規模適正化、規模の適正化をしていきなさいと、いう指導のもとに、地域協議会を立ち上げて、再編の話をさせていただいたり、南第二小を存続という形を教育委員会も掌握し、考えながら進めてきた。次は、この地域協議会からの意見をもとに、早急に南小学校、南中学校の方に着手をしていきたいということである。

<意見>

南小・中学校の老朽化について、いつ地震が起きるかわからない、そのときに耐えられるかどうか。以前の南中学校の校長先生から聞いたこともあるが、今は建物は良いけれども、雨漏りがものすごくひどい。そういう意味で、早く建て替えをやるべきだと思う。

それともう一つ、北小平尾の校区は南第二小学校校区で、南第二小の学校ボランティアでいろいろ応援している。だが、調整区域があると、子どもは南小学校へも通うこととなり、自治会としてはどちらの学校にも行かないといけない。このところをもっとはっきりと決めるべきではないか。校区の調整区域を広げて

いくことはありがたい、南中学校と大瀬中学校の生徒数の格差、やはり中学生同士、同等の人数はできないと思うが、中学生としていろんな体力をつくっていかないといけない時期に、以前の南中学校では、野球部が1チーム作れない、そういうようなことをなくしたい。教育委員会、あるいは教育委員さんをお願いしたいのは、今の状況と情勢を見ながら、将来の人数は見込めるのだから、もっと早くからどうするかという対策を考えていく必要があったのではないかと思う。いずれにしても、南小・中学校の校舎の建て替えについては、もう見劣りするるので、できるだけ早く進めていただければありがたい。

<質問>

これまでの議論、質疑の中で、小中一貫化は、市の方針として進めたい。しかし地域の声として上がったものではないということが明らかになった。表題にもあるように、「生駒南小・中学校の今後」ということなので、歴史的には南小学校で150年ぐらいある。それを変えるということなので、これまでの南小学校はどうであったか、これまでの南中学校はどうだったかという、総括をきちんとしないといけないと思う。今後どうするかということは、その総括をきちんとした上で、積み上げていく必要があるのではないか。これまでの南小学校の総括、南中学校の総括をどういうようにされたのかということと、老朽化の問題と一貫校の問題を一旦切り離して考えるべきではないか。いろいろな問題がごちゃごちゃになっているので、これまでの6・3制がどうだったかということ、きちんと議論されなければならない。全国的にこの一貫校が問題になっている訳なので、きちんとデメリット・メリットをしっかりと検証する必要があると思う。

【回答】

誤解を与えているところもあるので、説明させていただく。

一貫校、一貫教育というと小学校と中学校がなくなって、一つの学校になるという様に考えて、誤解されているところもあるかと思うが、例えば、生駒北小中学校についても、生駒北小学校というのは存在しており、生駒北中学校というのも存在している。1つの校舎内で、基本的に特別教室は小中一緒に使っているが、3階が中学校、2階が小学校で、学校としては、6年間の小学校と3年間の中学校という形で運営している。視察に行った王寺北義務教育学校は、義務教育学校という形で、小学校と中学校を一旦一緒にしてしまって、4・3・2制という形を取っている。そういうふうにするかどうかは、これからの議論になると思う。教育委員会が、混乱させるような説明の仕方をして、誤解を与えているところはお詫びしたいと思うが、今、提案させていただいているのは、小学校と中学校が一緒の敷地の中で、例えば、小学校と中学校を北小中学校のように2階3階にするのが良いのか、棟ごとに分けるのが良いのか、そこはこれからの話になるが、同時に建て替える形で考えているというところを説明させていただいている。だから、南小学校がなくなる、南中学校がなくなるという議論はしていない。義務教育学校にするという話もまた全然していない。今後の話だと思っているので、それについては校舎の建て方等を考えながら、また皆さんと一緒に地域協議会に代わるようなものの中で、進めていきたいと考えている。

<質問>

6・3制はとてもよくできた制度である。これはしっかり子どもたちの発達段階や文化、生活リズムが考えら

れた制度なので、壊さないで欲しい。大学の先生方に聞いても、一貫校の生徒は、みんな気を使っていると、お兄ちゃんやお姉ちゃんの勉強があるから、受験があるから、迷惑をかけたらダメと先生から言われるし、騒いだら怒られる。特に小中一貫のデメリットをきちっと検証して欲しい。そうしないと、教師の負担、今でさえ働き方改革、それから超多忙で倒れる教師が出てくるという中で、特に中学校教師の方が小学校に助けに行かないといけないということで、その分、教材研究ができなかったりする。これ以上、負担が増えない、そういう配慮、そういう制度にしていきたい。

【回答】

学校の形態というのはこれから考えていくことである。小学校の校舎、中学校の校舎と分けて考える方法もちろんあるし、総括は、毎年全ての学校が学校評価を含めて総括をしている。だからこそ、南小学校の良さや課題、また南中学校の良さ、今の取り組みの成果や課題を皆さんとも共有しながら、しっかり残すべきところは残す、また改善すべきところは改善するという、一貫教育であってもなくても、していかなければいけないことで、6・3 制ということの良さであったり、また課題であるところはしっかりと考えていきたい。そのために、今後は、準備委員会や検討委員会、学識経験者の大学の先生や県教育委員会で推進している担当の方もいるので、そういう方々も招いての学習会で、皆さんとともに教育委員会の方も勉強し、情報共有しながら進めていきたいと考えている。

<意見>

南第二小学校の統合のときから地域協議会で、教育委員会は、一部の方の意見を取り上げるような形で、行動を進めていたようだが、私達はその事がおかしいということで、地域の要望を相当取り入れたような形で、南第二小学校は、南小学校と統合されることはなく存続したと考えている。【資料2-3】で、老朽化を何とかして欲しいという意見は確かに出ていた。しかし、一貫教育は、まだはっきり決まってないようなことを言っているが、南小・中学校の今後を考える会議で、一貫校という話が一気に出てきたと考えている。校区割り、調整区域も広めていくというのは大賛成だが、一貫教育ということについて、いろんな疑問を言ってきた。生駒市の総合教育会議で、教育委員全員が一貫教育の方向でというような感じでおっしゃられていたのもよくわかっている。だが、その中で一貫教育が、どれだけこれまでやってきた教育の内容と変わっていくのかということは、本当に論議されているのだろうかと思う。この南小、南中学校校区の地元住民の意見が、資料では一つも載っていない。まとめられる場合、都合の良い意見だけではなく、いろんな考えを載せて欲しい。教育は非常に大切なもので、制度を変えるというのは大きな問題で、課題である。もっと論議をきちんとしていただいて、建て替えと一貫校の考え方を一緒にしていただければ困る。別々に考えて、建て替えで小学校・中学校の施設をどうしていくか、どうしたら合理的になるか、十分考えていかないとダメだと思うが、それと小中一貫校というのを抱き合わせにするのは、大切なことに禍根を残すことになるのではないかな。

<質問>

今日参加して、いろんな論議をされているというのはわかる。最初の文書に住民の意見を十分尊重しな

がら、ということも書かれていたが、もっと時間をかけて論議をしていただけたらと思う。先程から聞いていた印象は、老朽化の問題が先に出されて、そのための論議から始まっているようだが、一貫教育が全面に出ているように感じる。大学の先生の論文を見ると、必ずしも小中一貫校のメリットが大きいというは出てきていない、いろんな意見があるという感じがする。それから、文科省から小中一貫校が出てできた2015年から、小中一貫を進めていく過程というのは、必ずしも一貫していない感じがする。文科省の説明の中でも、一貫校と非一貫校を同一条件で比較検討、研究調査をした資料はないというように発言をしておられる。まだまだ、小中一貫の問題では論議が多いのではないか。早く進めた方が良いという段階には感じられない。

例えば、中1ギャップについて、ある大学の先生は、そのギャップがあるから伸びられる、というふうに書かれていて、そういった検討を十分しないと、北小中学校の校長先生の資料の範囲で、これを進めていくのだというのは、検証ができていないのではないか。小中一貫を進めるということは、文科省が進めようとしていることに、何か乗っかっていて、そういう方向で縮小して施設を建てていけば、補助がもらいやすくなるというように感じられて、そういう施策がずっと続いているような感じがする。何人かの方がおっしゃっていたが、二つの問題は同じ土俵に乗るようなことではない。もっとしっかり論議をしていただいて、老朽化はもちろん、早く綺麗な学校でというのはあるが、耐久年数からはそんな急ぐことではない。第3回の会議以降のスケジュールが入っていないが、是非とも説明会を十分に行うなど、十分意見交換をしながら進めていっていただきたい。

【回答】

一貫教育と建物を別々に議論をというご意見をいただいている。

教育の中身について、新しいもの、一貫教育やプログラム教育、英語教育など、例えば、小学校でも中学校のように教科担任制が出てくるとか、教育の中身がどんどん変わっていくという状況に学校運営も合わせていかなければならない。

建物についても、先程評価のことを言っていたと思うが、50年たった建物を、80年間もたすように改修するための費用、その30年後には、また改築を考えていかなければならない、そこで大きな判断が必要かと思う。財政面のことを考えながら、一つ一つの学校をどうしていくかということを教育委員会では考えているところである。

進捗状況の説明ということでは、保護者説明会を11月に、今回住民説明会ということで年末お忙しい中ご参集いただいた。今後は、考える会議や総合教育会議がある。そういった経緯を説明する機会というものは設けていきたいと考えている。

<質問>

小中一貫校について、中1ギャップのことを問題視されているが、文科省自身は中1ギャップってということについては、小中一貫校がいいという記述は一切ない。そのことについて、どう思っておられるのかお聞きしたい。

老朽化については、今の対象の校舎についてはそういうことは考えていないということを担当課の方が言っておられたので、この老朽化を進める一つの口実にされているが、【資料6】今後の予定でも、1月の

総合教育会議を開いて、その後4月から基本設計に入るといような形になっている。小中一貫校のことも、教育の根幹に関わるようなことを急いで結論付けられるのはいかがか。建て替えも緊急でないのであれば、もっと住民に説明して、お互いに納得のいくような期間が必要ではないかと思う。【資料6】のスケジュールを延ばすことができないのか。

【回答】

皆さんと共有させていただきたいのは、この中1ギャップについて生徒指導リーフという、文科省というよりも、国立教育政策研究所の生徒指導・進路指導研究センターから出ているものである。この中に書かれていることが、私達の一つの考え方に繋がっており、小1プロブレム・中1ギャップという言葉は、生駒市の教育の考え方の中でも使っているが、その背景として、不登校は中1になってから急に増えるわけではない。その原因やきっかけになることは、当然小学校の頃から起こっているし、小学校のときから抱えていることがある、その先送りされた問題や積み残しされた問題などの課題に対しても、一貫性のある対応が必要であるということが、ここには書かれてある。だからこそ、小中一貫という、これは建物が同一であるなしではなく、生駒市全体として進めていく中で、現在も小学校の情報を中学校の先生と共有しながら、中学校になって不登校になった子、また小学校から不登校の子に関して、どういう背景があって、どういう課題があってという情報を共有しながらやっているところである。そのことが、校舎一体型の小中一貫教育にすることによって、北小中学校の先生方、また保護者の方も言われていることだが、非常に先生方の情報共有がしやすい、それによって子どもたちが安心して過ごせる、保護者も安心して相談できるという体制がとれていると、すごくメリットがあるということは明らかである。だから、中1ギャップの新設ということは、決して教育委員会が進めようとしていることに対する反対意見ではなくて、むしろこれも一つのよりどころとして考えているところである。中1ギャップがあるから小中一貫を進めるということではない。

【回答】

建物について、行政経営課が出している部分と、齟齬があるのではないかという話では、文科省が進めているのは、今の建物を80年間耐えるものに延ばすか、あるいは建て替えるかという形の考え方である。南中学校については、かなり老朽化しているのだから、改修をかけてもそんなに長くもたないだろうと考えているため、建て替えをしていかないといけない。南小学校についても、資料的なところでAである東館はまだ新しいので、確かにまだ建て替える必要はないかと思う。ただ、敷地の関係で、もしそのまま残してしまると、次に建て替えるときに建て替えられなくなる可能性がある。というのは、国道308号線はかなり幅員が狭いので、そこから工事することがなかなか難しくなる。するのであれば、一緒の時期にしていかないと、かなりしんどいのではないかと思われる。その辺も想定して、南小学校について、長寿命化したとしても、いずれ建て替えていかなければならないということも出てくるので、今の段階で一緒に工事するのが、得策ではないかと考えている。

<質問>

【資料3】として、北小中学校の小中一貫教育についてとあるが、これについて、市としてはどういう評価をされたのかということ、特にこれまで直接触れているところはないように思う。資料にはメリットとデメリ

ットが出ているが、本当にメリットがあったのかというように見える。例えば、中1ギャップの解消で、同じ校舎なので不安が少ないとか書いてあるが、裏返して言うと、6年間通った校舎から、今度は中学の新しい校舎に通うというのは、ある意味では期待を持って行けるという部分があるのではないかと。小学校6年間ということは相当長いので、それなりに区切りをつけてという事の方が良いのではないかとこの気がするのと、例えば社会に出ても、今は、国としては、企業間の移動を自由にするような形を目指すというようなことを言っており、その場合では新しい企業に行ったら環境が変わるので、そういう環境に適用していくということを考えると、校舎が一緒だから不安がない方が良く、言えるのかと思う。

それから中学校の先生が、小学校が入って、専科導入をやるのが、小学校の方の手本になるというふうなことを書いてある。もし本当にそうであるならば、そういう形の教育の理念ということ为国としてやれば良いことであって、小中一貫校を取り入れたから、それができるといような話をつくっていくのは、おかしいのではないのか。デメリットのところを書いてあるが、中学校の教材を用意するのと、小学校へ行くならば、もちろんその学年に合わせた教材は用意するわけだから、そのことが大変になるということが書いてある。メリットとデメリットは裏腹になっているという、そのこと自体の是非というのも、小中一貫校にすることでやる話でもないのではないかと。必要ならば、制度として取り入れるべきであろうと思う。

例えば、運動会を一緒にやっていると、そうすると中学校のものを小学校が見られるから良いと書いてあるが、運動会は1日かけてやるわけで、もしゆっくり、ちゃんとやろうとしたら、小学校であれば、かなりの時間が必要になる、中学校と一緒になれば、当然どこかでしわ寄せがきて、それぞれのものが少なくなるとかということが多分あるだろう。ただ大きくしてすることが良いということでもないのではないかと、それぞれを生かした運動会をやる方が良いのではないかと思える。こういうことをしっかり評価をして、南小、中学校で一緒にやるということについても、それを生かすことが必要ではないかと思う。

【回答】

現在、文科省の方からも高学年は教科担任制を進めるように推奨されているので、中学校の先生が、専科制になって授業を行っている学校もある。ただ、先生の人数や割り振りもあるので、うまく時間割を組むというのがとても難しいことが小学校の課題である。そんな中、北小中学校の場合は、例えば中学校の体育の先生が、中学校であれば学級数が少なく、持ち時間が少ないので、小学校の先生が授業をしているところへ補助で入って、中学校の先生が主になって体育指導して、専門的なところをそばで話を聞きながら、授業を行うということができている。また、今年は、先生の数が非常に少ないので、中学校に音楽の先生が配置されていない。そうすると、普通は、他の中学校の音楽専科の先生に、北中学校の音楽の時間にだけ来ていただいて、それ以外のときは自分の学校へ帰ってもらうという形になったりする場合もあるが、今は小学校の音楽専科の先生が中学校の免許を持っているので、同じ学校内で中学校の授業もしている状況にもなっている。そういう、ちょっと工夫をすると臨機応変に小中が連携できるような先生の体制の組み方も、施設一体型の形になると、時間割の組み方等も工夫できるようになる。

それと、最初から北小中学校も運動会等の行事を一緒にやっていたわけではなく、連携を進めながら、いろんなところでもっと小中一貫でできることがあるのではないかとこのことを、先生方と地域で話し合いながら、運動会を一緒にしたり、入学式や卒業式を合同にしたり、ここは分けた方がいいというところは分けたりと、6年制3年制を保ちつつ、学校で取り組みを進めていただいているところある。

<意見>

【資料6】の今後のスケジュールを見ると、南小中学校の今後を考える会議、総合教育会議があり、それから教育委員会で方向性の決定が行われる、ということ、その後、さらに基本設計というこういう形で進められているということになっている。教育現場で、6・3・3制から小中一貫教育に移していきたいという声が上がっていたら、全国的に、もっと小中一貫が進んでいると思う。ところが、現場からそういう声が少ないのではないかと感じられる。したがって、こういう急いだ日程でやるべき問題ではない。この日程で行くには、期間が短すぎると感じる。もっと論議を尽くして、住民の心に落ちないといけないのではないのか。

<意見>

この論議の進め方だが、今日の説明会で、何が問題点なのか、というようなことの説明があるかと思ったら、資料の説明に終わっている。この資料を前もって参加者に配布してもらうとか、この資料は全部インターネットに出ているので、それをまず読んでおいてから説明会に臨むということをすれば、もっと論議が深まるのではないか。

あと、小中一貫については、絶対これが正しいという方法はないと思う。海外では、小中一貫をしているところもいっぱいあるし、私立でも小中一貫というのがある。今の6・3制の小中というのは、子どものために、本当に今の時代に合っているのかどうかということも、検討してみる必要があるのではないか。北小中学校の校長先生の声だけでなく、もう既にやっているところはかなりあると思うので、そういう資料を提示してもらったり、メリット・デメリットが、子どものためにどうなっているのかということも必要である。予算もあるので、将来に向けて、こんなふうに考えていきたいということは出されたら良いと思うが、もう少し検討する時間は取ってもいい。それは、2年とか3年ではなしに、1年なら1年と区切ってもいいと思うのだが、深めていくということが必要ではないかと思う。場所は、この公民館だけではなく、学校の中の多目的室を使って、論議するということが必要ではないか。

<質問>

小中一貫教育については、まだまだ議論するところがたくさんあると思われるが、やはり校舎の老朽化は、子どもの授業参観などで学校行事を見に行くと、子どもが歩いているところの建物の上の角のコンクリートが大きく剥がれていたりする。事故が今までなかったのか、この議論を深める中で、日にちがどんどん過ぎていく。建物の調査等は、どれぐらいの頻度でしているものなのか。

【回答】

今まで、コンクリートが落ちたり、危ないところはなかった。法定点検と、学校長や教頭が、毎日校舎を目視で見て、異変があればすぐに教育委員会に連絡いただき、その都度簡単な補修を掛けている。特に、教育環境、子どもの安全が一番大事なところなので、できるだけ早く建て替えはしたいと考えている。

<意見>

小中一貫については、まだまだ議論の余地があると思うが、子どもが小学校、中学校に通っている親として、やはり中学校の建て替えはして欲しい。校舎も、グラウンドも狭いし、あの中で中学生が思う存分、体を動かしているのかと思うと疑問を感じる。以前に、サッカー部をつくって欲しいとお願いしたら、グラウンドの広さと、あと生徒もいるので無理と言われた。今回建て替えの話が出て、以前から、小学校と中学校を集約して運動場を目いっぱい使えるように中学校のグラウンドを広げてもらえたらと思っていたので、建て替えには賛成している。それと、北小中学校を視察して、これから少子化が進んでいく中で、小学校や中学校が単に教育現場ではなくて、防災の面でも、地域の財産として校舎を考えていく視点はあった方がよい。教育の小中一貫とは別問題として、建て替えはできたら進めていただきたい。

<意見>

主人もここが地元で育ち、子どもが4人いて、4人目が来年小学校に上がるということで、この問題にも非常に関心を持って見ているが、小中一貫教育にする意味が全くわからない。

コロナで大打撃を受けている、今の子どもたちについて、どのように考えておられるのか、いじめや不登校、非行とか、過去最高を全部叩き出しているという情報が流れてきて、会議に何回も参加させてもらいながら、そのような思いも深まっている。建物のことについての議論が盛んに行われているという印象しか持たなくて、この前の総合教育会議でも、施設について、校区について話がされたと先程おっしゃったが、今のこの状況に置かれている子どもたちについてとか、これから南小学校、南中学校で目指している小中一貫教育の具体的な教育的な観点、こんなことを目指してやっていこうと思っているという、具体的なことは全く抜けており、全く話題に上がっていなかった。施設の老朽化に関しては、雨漏りはすごく大変で、防水のこととかも何かしら関係してくるから大変だと思うが、今、南小学校と南中学校で勉強している子どもたちの環境も整えていただきたい。コンクリートが剥がれているのだったら、小刻みな修復は大事だと思う。

小中一貫教育を提案されているが、これは保護者からの希望でもなく、現場の先生方からの希望でもないと考えているので、教育委員会からの提案であるというならば、先程から盛んに意見が出ているが、時間をとっていただいて教育的な観点をしっかりと聞きたい。こういうことを目指しています、というものがあってからこそその建物をどうするかだと思っているが、校区のこともまだはっきりわからなくて、規模もわからないのに、先に建物のことなんか決められないし、どんな教育を目指しているかというのがわからない中で、校舎の様子なんか決まることもないと思っている。子どもの安全などを守りつつ、魅力的な学校にしようが、普通でいいと思っている。コロナで、行事という行事がなくなった子どもたちが、これからだと思っているときに、特別なことは何にもいらない。先生方も余裕を持っていただいて、小学生らしく行事も楽しんで、中学生に上がったというような段階を取れるように、普通の学校生活を送らせてあげて欲しい。

<質問>

最初に聞かせていただいた先生の声はどうかということについて、もう一度確認したい。

小中一貫がこれほど素晴らしいものであるのならば、うちの娘は教師だが、8時9時まで働いて、小中一貫ができる余裕さえもないというのは現実だという。そういう中で、それを教員に押し付けていくのではないかという思いがあるので、どのような研修がされているのか、保障はされているのか、先生からの声で聞こえているのか、を確認したい。

【回答】

小中一貫教育というのは、既に生駒市の方針として小中一貫教育、小中連携を進めているところである。北小中学校だけがやっているわけではなく、各学校も小学校と中学校の先生で、定期的に会議を持ったりしながら交流をしている。小学校の子どもたちが中学校に入学する前に、1日体験入学へ行ったり、中学校の先生が出前授業に来たり、中学生が、こんな部活動があるから入学したら是非クラブに入ってくださいと紹介しに来てくれたりということを、中学校に入ってからではなくて、小学校の段階から進めている。教育委員会としては、英語教育については、小学校と中学校の先生が合同で会議をして、中学校の先生から見て、小学校でどんな授業を行っているのか、小学校の英語教育はこれでいいのかというところをアドバイスしたりしながら連携している。また生徒指導部会についても、問題を抱えている子どもたちのことを、小学校と中学校の先生が集まって行っている。また学校の中でも職員会議で、小学校と中学校、または幼稚園、保育園と研修の機会を持ちながら連携というものは進めている。その中で最終的に教育課程もしっかりカリキュラムを取り組んだ一貫教育に繋がっていければ良いということで、今各学校は小中連携を行っている。

【教育長挨拶】

本日は、本当に貴重なご意見ご質問を寄せていただき、ありがとうございました。こういう時間を重ねることの大切さを実感している。12月14日に奈良県教育委員会主催の連絡会に参加した。奈良県では平成28年度には小中の一貫教育が13校だったのが、今年度44校、小中連携と合わせて77校と、年々増えている。全国レベルでは、義務教育学校の例として、平成28年に22校だったのが、今年度172校と、全国的な流れとして小中一貫教育が進んでいるという話や、また県内の各市町村でやっている資料をいろいろいただき、今勉強しているところである。それぞれの教育長が開校までに一番時間をかけてきたことが、住民や保護者への説明だと、ここが一番大切なプロセスだというお話も聞かせていただいた。ただ開校した後は、子どもと姿を見て、非常に皆さん喜んでいただいているという話も聞いた。本日ご意見をいただいたように、子どもにとって、どういう教育の環境をつくっていくかは、教育委員会としても学校としても、しっかりと考えていかなければいけない。

もう一つは、学校の役割というのは、地域に開かれた学校ということで果たす役割は大きい。そこも、しっかりと考えながら、駅前のバリアフリー化など今いろいろ南地区自体が動いている中において、この南小学校、南中学校がもっと子どもたちにとっても、地域の皆さんにとっても、素晴らしい施設にしていきたいという思いは一緒だと思うので、そこを共有しながら、教育委員会としても進めていきたい。早速明日、定例教育委員会でこのことがまた議題として挙げられる。1月には総合教育会議で市長、副市長とも協議をしながら、ある程度方向性を今年度決定していくが、その中で、さらに皆さんと論議を進めながら話し合わなければいけないことはたくさんある。それは検討委員会、また準備会という形で、多くの方々にお伝えをする、また意見をお伺いする機会をつくっていくように努力するので、どうぞご理解いただきたい。